

平成22年度 専門技術者講習・試験

合計1,801名が新規受験、可搬形は829名で大幅増

平成22年度の専門技術者資格取得の講習・試験は、9月上旬から11月上旬にかけて、自家用発電設備専門技術者は全国の10会場（札幌、仙台、東京、富山、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、那覇）で計12回、可搬形発電設備専門技術者については全国の10会場で計11回実施した。平成22年度の新規の受験者数は、自家用発電設備専門技術者が昨年度に比べ、22名減少し972名であったが、可搬形発電設備専門技術者については大幅に増加し、昨年度より400名多い829名となり、合計1,801名となった。可搬形での受験者増は、移動用発電設備を取り扱う上での管理体制の徹底という建設業界での法令遵守による結果と思われる。可搬形での受験者の増加に対応して、実施回数について見直しを行い、東京会場では1回増やし2回実施した。

なお、平成22年度の受験結果については、11月26日開催の自家用発電設備専門技術者審査委員会で審査を行った。この審査結果に基づき、今後、内発協会長が合否を決定することになる。受験者には12月下旬に合否が通知される予定。

科目別47名、業務区分追加21名が受験

一方、自家用発電設備専門技術者の科目別受験では47名、同業務区分追加受験では21名がそれぞれ

日本機工株式会社

自家発電設備設計・据付工事・パッケージ消音器・排気消音器・燃料タンク等の製作・保守点検・整備工事

本 社 〒105-0012
東京都港区芝大門2-10-1(第一大門ビル)
TEL.03(3436)6521 FAX.(3436)6526
栗橋工場 〒349-1103
埼玉県久喜市栗橋東6丁目19番8号
TEL.0480(52)3311 FAX.(52)6810

受験した。科目別受験は、昨年度の受験において一部科目が合格点に達しなかったため合格できなかった受験者が、今年度その科目のみを再受験する方式である。業務区分追加受験は、既に専門技術者の資格を有している者が、取得している業務区分以外に、新たに他の業務区分を追加するために受験する方式である。

受験者の会場別内訳

受験者の会場別内訳は、自家用発電設備専門技術者は平成21、22年度とも東京会場が圧倒的に多く、大阪会場、名古屋会場を含めた上位3会場で全体の60%を超えた。一方、可搬形発電設備専門技術者は仙台会場を除いた全会場で21年度に比べ、受験者が増加し、特に札幌、東京、富山、大阪、福岡の5会場では2倍以上となった。なお、21年度は那覇会場での講習・試験は開催がなかった。

受験者の業種別内訳

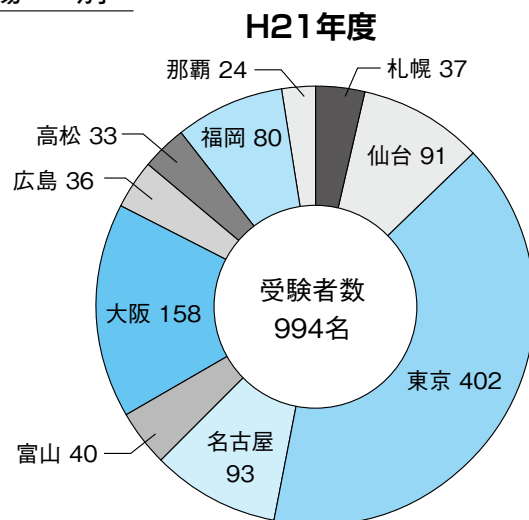
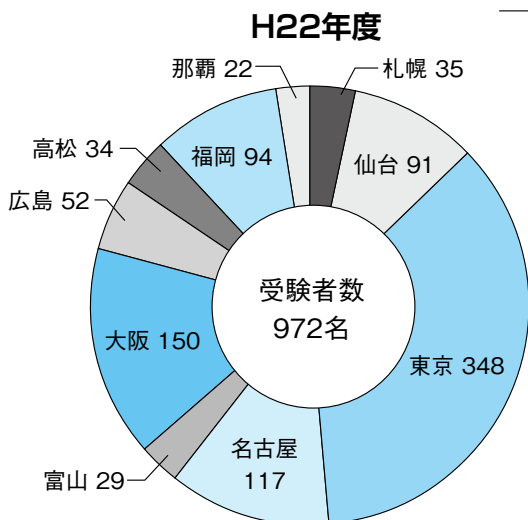
受験者の業種別内訳は、自家用発電設備専門技術者は平成21、22年度とも電気工事業、保守・修理業及び製造業に従事する者が全体の約70%を占めた。一方、可搬形発電設備専門技術者も平成21と22年度の内訳はほぼ同じ傾向で、土木工事業、建築設備工事業及び賃貸(リース・レンタル)業、に従事する者が全体の約70%を占めている。

受験者の年齢別内訳

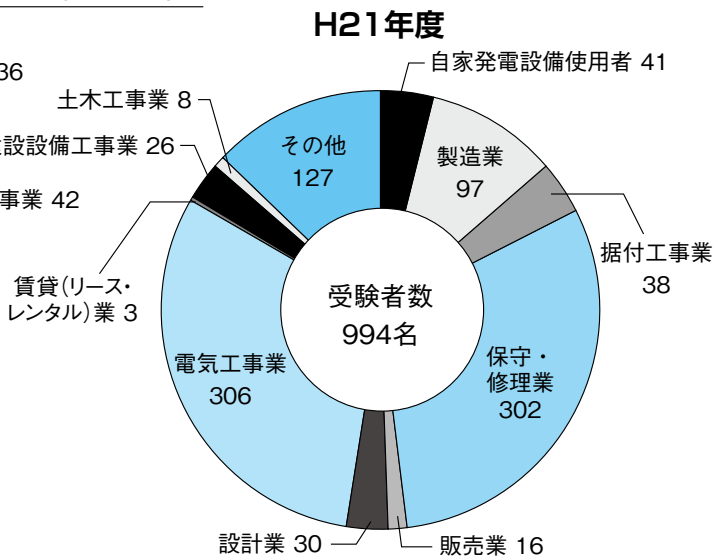
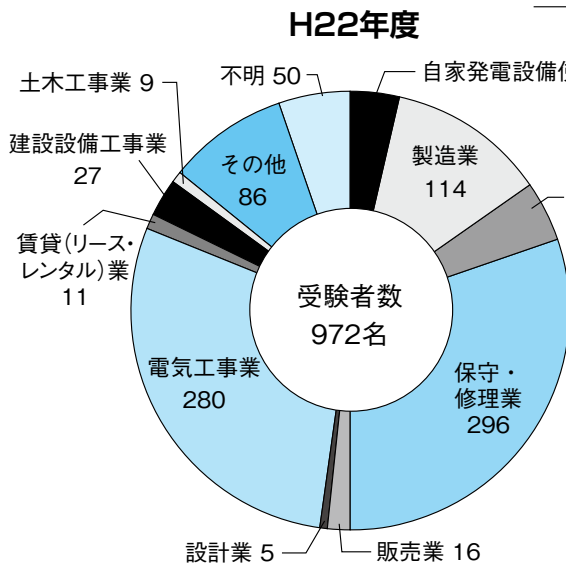
受験者の年齢別内訳は、自家用発電設備専門技術者は平成21、22年度とも30代が約半数を占め、40代、20代の順になっている。一方、可搬形発電設備専門技術者も自家用発電設備専門技術者と同様、平成21、22年度とも30代が最も多く、40代、20代と続いている。

自家用発電設備専門技術者の新規受験者数

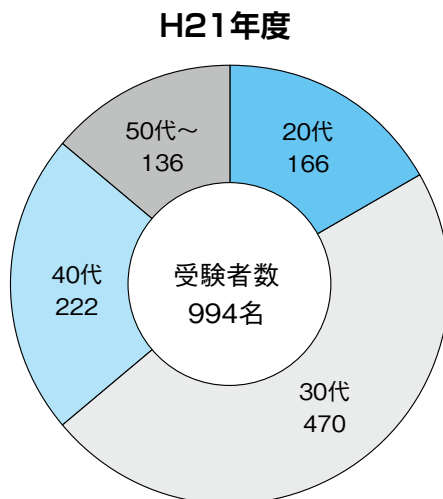
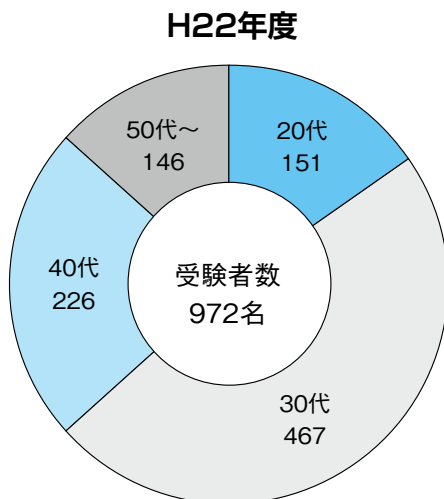
1. 会場別



2. 業種別

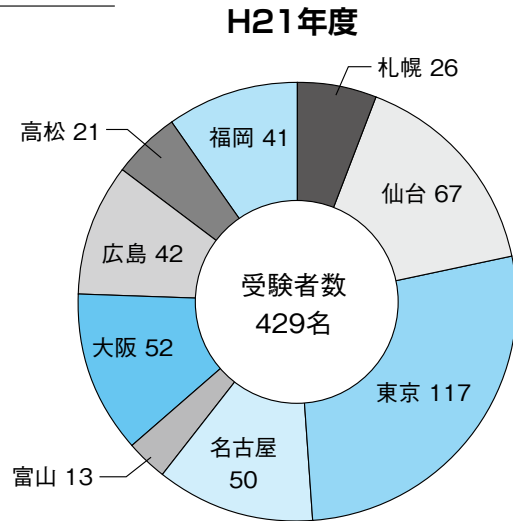
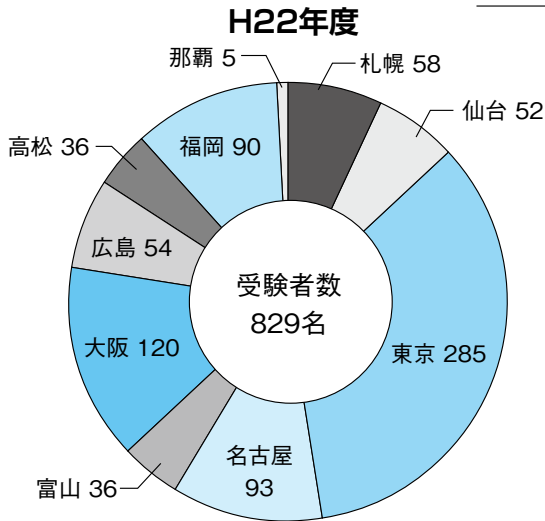


3. 年齢別

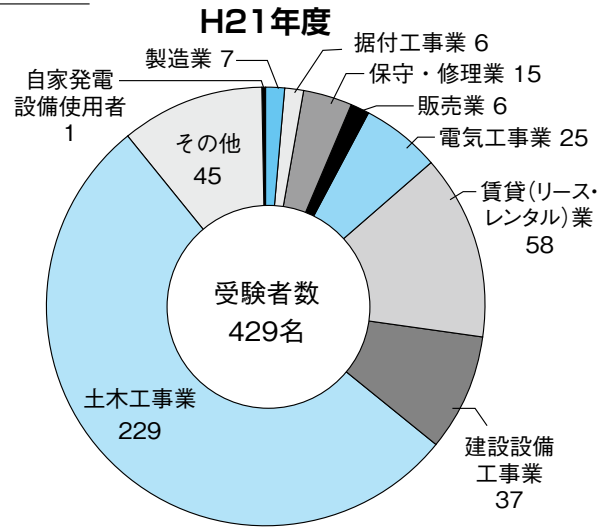
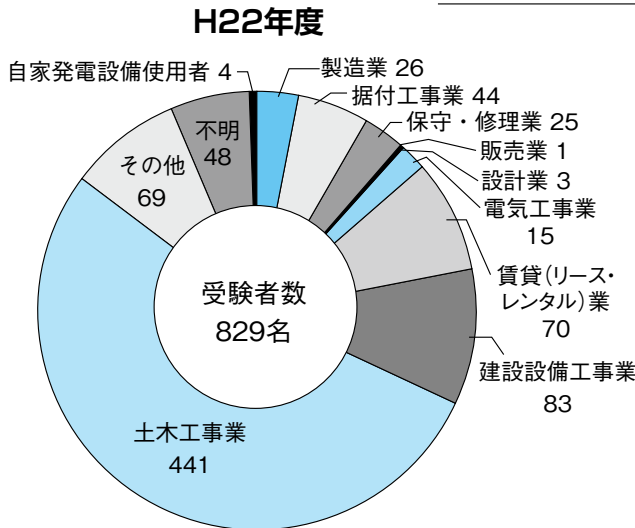


可搬形発電設備専門技術者の新規受験者数

1. 会場別



2. 業種別



3. 年齢別

